

“人間と性”

一般社団法人“人間と性”教育研究協議会

〈性教協〉会報 No. 389

2024.2.25



発行：“人間と性”教育研究協議会/発行責任者：水野哲夫
〒151-0071 東京都渋谷区本町1-7-16 初台/ハイソ1006号
<https://www.seikyokyo.org> Tel 03 (3379) 7556

視 点

生涯教育としての性教育 —おとなの性の学習に取り組む—

40年あまり前、日本性教育協会が発足し、純潔教育から性教育への転換が行われた。国内の研究大会や海外研修が数多く行われ、性教育の夜明けと言われる時期があった。

愛知性教協は“人間と性教育研究協議会”の愛知サークルとして1985年に発足した。

性教育の全国セミナーや、キンゼイ研究所のライニッシュ所長を招いての講演会などを開き、会員も次第に増えてきた。現在、毎年2月に開いている「如月研修」は、一泊の合宿研修としてその頃から始まったが、半日の研修会として行っている。

30年くらい前、私たちが進めようとしていた性教育を「過激派性教育」というレッテルを貼って攻撃する動きが全国的に始まったが、愛知では目立った攻撃はされなかった。

その頃「性教育」を受けた人たちは立派な大人になっているが、その人たちの「性意識」がどう変化してきたかを考えてみると、純潔教育時代のそれとあまり変わっていないような気がする。当時、マスコミは「性教育元年」として取り上げたが、その成果は実感できない。

教育関係や社会のルールを守る職業にいる人たちの性暴力の報道を聞くたびに、被害を受ける側へ働きかける「生命（いのち）の安全教育」でなく、被害を与える側への働きかけや、それを目撃する第三者への働きかけの「生命（いのち）の安全教育」が重要だと感じる。

「性」を恥ずかしい事と捉え、秘め事とか人前では口に出すべきでないという意識を持つ人は沢山居る。それをどのようにして乗り越える事ができるか、問題を解決する

糸口を探したい。

性教育は人間教育だと言われるが、まさにその通りで、生涯教育でもあると思う。人の一生の中のある時期（思春期といわれる年代）だけに必要なものではない。学校教育だけに限らず、一生の間に学習する機会はいつでもあるのがよいと思う。

愛知性教協では、とすると学校教育に頼りがちな性教育を、生涯教育の視点に立て「おとなの性の学習」という捉え方で、例会において「セクシュアリティーカフェ」を立ち上げ、身近な性の課題を語り合う中から知識を広め、知恵を生み出す手段を考えた。

コロナ禍の影響で例会の開催数も減少し、また、会員数も少なくなってきたが「セクシュアリティーカフェ」の開催数を増やし、興味を持って老若男女誰でも参加できる事を期待している。

哺乳類の中で脳の前頭葉が特に発達した人類は「性」を生殖以外に利用し、コミュニケーションツールとして豊かな人生を送る方法を発見したと言われている。生殖以外の「人間の性の生き方」を一生かけて学習し、豊かな人生を送る事ができれば最高だと思う。

愛知性教協はその目的を目指して進んで行きたい。



青木 幸夫
(愛知性教協代表)